

(規則) 様式第7 (第7条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

2024 年 8 月 5 日

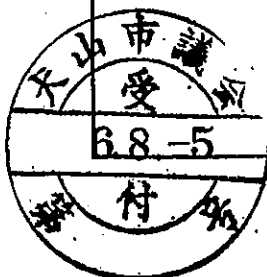
犬 山 市 議 会

議 長 柴田浩行 様

議員名 田村千里

下記のとおり、減災館見学の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	2024 年 7 月 24 日 (水) ~ 年 月 日 () (泊 日)
(2) 場 所	名古屋大学 (減災連携研究センター) 減災館
(3) 形 態	会派 (日本共産党 犬山市議員団) : その他 ()
(4) 内 容	1. ギャラリートーク: 飛田潤先生 (建築学) の話 地震に強い家とは? 神戸や能登半島地震でも古い家は 1 階部分がつぶれやすい。耐震基準は 1985 年以降見直し、耐震補強が重要。耐震等級も 1~3 級まであり、1 級は最低限の内容となる。耐震補強は 300~400 万円かかるが県の補助金を利用すると良い。南海トラフでは、これまでに起きた震災の被害 (建物倒壊と火災、津波) 全てが起これる。耐震補強で壊れな家と、家具が固定が重要。また、展示コーナーでは、家の模型をゆらして倒壊する様子を見たり、巨大な航空写真に映像で浸水シミュレーションを体験するなど興味深かった。
(5) 成果・提言	1. 家具の固定は、犬山でも進められていない。支援の対象は、高齢者世帯。支援の対象を更に広げ、家具の固定を全世帯に広げる。 2. 耐震等級や耐震補強の技術について市民に周知し、減災の意識を高めていく。 3. 名古屋大学と連携し、減災対策について市の職員が学ぶ機会をつくる。(現在、三河地区の自治体の職員が減災館に出張で来ているとのこと) 4. 防災訓練により多くの市民が参加できるように、夜間の避難訓練など、様々なことを想定した訓練を行っていく。



「減災」の 最先端が、 ここに集結

減災社会
の実現

屋上

○屋上実験室

3・4F 研究

○プロジェクト室
○教員室

2F 調べ

○調べ学習の減災ライブラリー
○災害対策室

1F 学び

○体感・体験の減災ギャラリー
○減災ホール

免震層

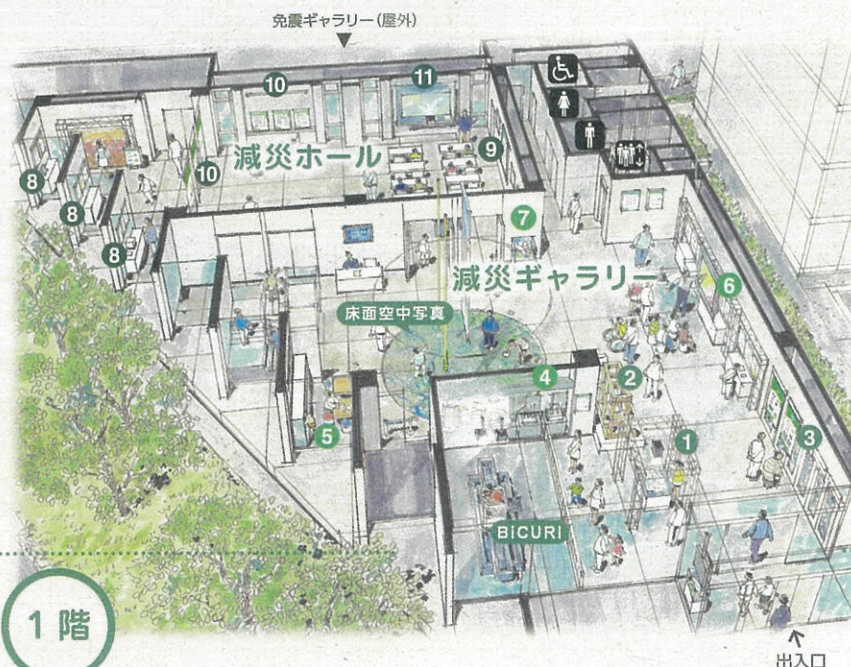
○免震ギャラリー

災害に対する事前の対応をしっかりと、起こり得る被害をできるだけ軽減する――。

減災館には、そのために地震や防災の研究者が集結し、全館が建築耐震技術の開発と実験の場となっています。平常時は、研究と教育、各種セミナーで市民をつなぎ、大規模災害発生時は各種機関と連携しながら、大学や地域の災害対応の拠点となります。

減災館へようこそ

セミナー・ワークショップ、
体感・体験による市民に開かれた学びの場です。



1階

振動再現装置 BICURI

高層建物の中で巨大地震に遭遇した時の揺れを映像とともに振動台を使ってリアルに再現

床面空中写真

名古屋市と周辺市町村を空から見たリアルな写真を床面展示

減災ギャラリー

各種の教材で、地震被害を体感し「減災」への意識を高めていきます。「げんさいカフェ」などイベントも行われます。

減災ホール

防災アカデミーや各種講演会を実施します。

展示 【家庭防災】

① 3D地形模型

東海地域の立体地形模型にハザードマップ等デジタル情報を融合

② 木造建物耐震補強の実物展示

③ 家庭の防災

家具固定の説明や備蓄品の実物展示

【防災基礎】

④ ぶるるコーナー

建物や地盤の揺れ、耐震化について体感できる模型教材コーナー

⑤ キッズ工作コーナー

工作や展示で学ぶ子ども向けコーナー

⑥ 防災・減災の基礎

防災の科学的基礎知識を紹介(被害想定、津波、液状化、経済、情報、心理、都市計画)

⑦ ライフライン防災コーナー

電気、都市ガスの防災についてビデオ展示

【防災応用】

⑧ 防災・減災の最新技術

減災研究のさまざまな研究や技術を紹介(地殻変動、活断層、地盤・液状化)液状化の痕跡の実物を展示

屋上

大振幅長周期の揺れを再現する実験施設

2階



地震災害に関する書籍資料、歴史資料、古地図、各地のハザードマップなどが充実。学習スペースで自ら調べ・学ぶことができます。

⑨ 南海トラフ海底構造立体地図

赤青メガネをかけると飛び出る大きな海底図

⑩ 愛知の災害史

愛知県の災害に関する年表・石碑写真を展示

⑪ 地震の発生確率

地下



免震装置の実物を見てみよう。
免震ギャラリー

いざという時に災害対応拠点となる減災館は、最新の免震技術で高い安全性を確保。その装置が見学できます。建築の耐震・免震・制振が学べます。